

有害鳥獣対策に関する提言書

シカやイノシシ、サル等有害鳥獣による農作物等の被害は、農業者の営農意欲の低下とともに、遊休農地や荒廃地の増加をもたらし、高齢化と相まって、集落の深刻な問題となっている。第一次産業を守り育てるために、以下の提言を行うものである。

なお、本提言に対する取り組みについては、適宜、議会に報告を行うよう求める。

1 確認した課題

現地調査の結果、防護柵の未設置箇所があり、シカ等が侵入し食害が絶えない。また、人口減や高齢化のため防護柵設置や管理は地域住民や関係者だけでは困難である。さらに、猟友会の後継者不足は、鳥獣被害の増加につながり、喫緊の対策として新たな動物撃退策の手立ても考える必要がある。

2 提言

- (1) 防護柵の要望がある未設置箇所については、早期設置に向け努められたい。
- (2) 防護柵等の設置及びその後の管理には、地域と連携し、大学生や農業体験者等を募集するなど、人材の確保に努められたい。
- (3) 猟友会の後継者育成に力を入れるとともに、有害鳥獣の駆除員として人員の確保に努められたい。
- (4) サル対策としてモンキードッグ活用の試みをされたい。
- (5) 動物撃退器の実証実験をし、その効果を検証されたい。
- (6) 地域の状況に応じて、公共用地内に防護柵の設置緩和をされたい。

平成 29 年 6 月 23 日

宮津市長 井上 正嗣 様

宮津市議会議長 松浦 登美義